


SPACE 京都通信 2018 年 4 月号

606-8243 京都市左京区田中東高原町 28-1 SPACE 京都

電話：075-781-9699 FAX:075-71-2219 E-mail:lifelong@live.jp

学びどころ 創りどころ 西陣・葭屋町



京都建築専門学校葭屋町分校で語り合う（写真：右前から佐野春仁・校長 小関皆乎 鈴木雪弥 吉田匡廣 横山真由美各氏と左前から塚本利幸 富士谷あつ子 新川達郎 富士松松栄太夫各氏）

町衆学者 伊藤仁斎の古義堂近く

2019 年は上京区制 140 周年。京都市の誕生より 1 年早く。なかでも西陣・葭屋町は古代京都において檢非違使庁があったところ。千利休が秀吉から与えられた邸も、ここにあった。江戸時代初期、西陣近くの堀川に町衆学者の伊藤仁斎が開いた私塾「古義堂」は、約 3000 人の弟子を迎えていたという。

京都の町家と景観保全に指導的な役割を担う佐野春仁氏を校長とする京都建築専門学校の本校も分校も近い。生涯教育時代、1970 年から学び手と学びどころの構築を目指してきたシニアと、人生半ばからの出発をはかるミドルが、若者も交えながら、「創り手」サポートと町興しに取り組む。

<会員紹介> さあ これからセブンティーズ!



横山真由美（正会員・評議員・染花作家）は兵庫県加古川市出身。移り住んだ葭屋町の京町家が住まい兼アトリエ。葭屋町から堀川通りへ、清明神社からまた葭屋町に戻る一帯の活性化を呼び掛ける。



小野了代さん（正会員、NICCO:日本国際民間協力会理事長）は、短大講師の職を辞して、1970年代から難民救済活動に乗り出した。近年はケニアやタンザニアで高床式エコサントイレの設置を進め、NHK 厚生文化事業団賞など受賞多数。



達富弘之さん(準会員・版画家)は亀岡市在住。高校教諭として数学を担当するかたわら版画を指導。京都新聞に5年、連載。海外で緑化活動を重ね、子どもにも「ひげ爺」として親しまれる。目下、地元で「緑のカーテン」運動を進める。

生き生きシックスティーズ!



宇野日出生・評議員・京都市歴史資料館主任研究員は、一旦、定年後も歴史好きの市民が多い各地の文化事業の講師として席が温まらない。古文書を解読し一次資料に基づき講演と、神官でもある深い人々との交わりが好評。



山上安見子さん・評議員・日本文芸家協会会員は広島市在住。実家の墓が大徳寺黄梅院に移ったこともあり、毎月数日、京都に滞在して茶道など伝統文化を学ぶ。作家を目指す。『ベル オンム』(リトル・ガリバー社)など、ミドルの女性の恋を描く。2017年7月、冷泉邸での講座で謡曲「忠度」を披露。「秀吉と能」について研究中。

20代からのライフプランニング提言



藤田友輝さん(準会員・理学療法士)は、上京区を中心に活動する。80代半ばの祖母の変化を身近な問題として披露しながら、2018年1月の葭屋町での講座でライフプランニングの必要性を説いた。今後も地域福祉の向上を目指す。内外の専門家との交流を重ねている。

プロジェクトに参加しよう

京都文化創生機構では、役員・会員の皆さまに、ご関心の深いさまざまなプロジェクトへの参画をお勧めします。歴史・文学・美術・服飾・環境・福祉など。表現し公表する機会を創り、地域の日本の文化を発信しませんか。お申し出はメールや文書でお届けください。

●2018年度総会は5月12日(土)13時。京都建築専門学校1F.(近日ご案内)。

●冊子「女性学40周年、ジェンダー学20周年の成果と展望」3月末刊行
福井県立大学看護福祉学部社会福祉学科塚本利幸研究室刊(協力:当機構)



ジェンダー平等への実践を語る

- 左から「女性学からジェンダー学へ」富士谷あつ子(日本ジェンダー学会初代会長)
- 「男性学からジェンダー学へ」伊藤公雄(同学会前会長)
- 「シニアのボランティア活動」塚本利幸(同学会副会長・事務局長)
- 「女性への暴力の実情と抑止」後藤安子(同学会会員)

研究ノート:「日本の子育て環境の現状と展望」川島典子(同学会会員)

会員の講演と演奏 in よしやまち 2018年5月26日(土)13時

講師:富士松栄太夫(正会員)「京都生まれ豊後浄瑠璃を学んでみよう」

演奏:新内よしやまち連「玉屋新兵衛 比翼の初旅」ほか

会場:京都建築専門学校藤屋町分校(堀川下立売通西入る一筋下る)参加費:500円 定員:50人

